

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ながさきけんりつ ながさきひがし こうとうがっこう				②所在都道府県	長崎県
27～31	① 学校名	長崎県立長崎東高等学校					
③ 対象学 科名	④ 対象とする生徒数					⑤ 学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	長崎東高校 生徒数 840名 (長崎東中学校 生徒数 360名)	
普通科	280				440		
国際科		80	80				
⑥ 研究開発構想名		世界の「平和と共栄」を目指し、長崎から世界へ漕ぎ出す人材の育成					
⑦ 研究開 発の概要		長崎ならではの3つの視点（国際平和、医療支援、水環境）の1つからグローバルな課題を把握させ、その解決の手立てを考察させる課題研究を中心とした取組を行うことにより、日本及び世界の「平和と共栄」を目指して、グローバルな課題の解決に積極的に取り組むリーダーを育成するためのプログラムを研究開発する。					
⑧ 研究開 発の 内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>古くからの海外との交流や、原爆被災からの復興という歴史に加えて、先導的な医学研究や環境保全の取組を展開している施設・企業などの長崎の持つ教育資源を活用した課題研究において、国際平和や相互発展を実現するための手立てを考察させる活動を通して、グローバルリーダーとして必要な以下の資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①世界の平和を希求し、人類の持続可能な発展に寄与する精神 ②日本への深い造詣を持ち、幅広く異文化を理解しようとする態度 ③グローバルな課題を自分のものとして捉え、その解決に向けて行動する力 ④責任感や協調性などを含むリーダーシップとフォロワーシップ ⑤世界の人々に対して、自分の考えを効果的に伝える力 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本校の多くの生徒は、国際平和の実現を初めとするグローバルな課題をどう捉え、その実現のためにどのように行動すべきかについて、具体的なイメージを持っていない。 ②本校では個々の興味関心を掘り下げて自主的に学習しようとする姿勢に課題が残っている生徒が多い。また、企画力や行動力があり集団を牽引できる生徒は一部に限られており、多くの生徒はリーダー性を発揮できていない。 ③本校の多くの生徒は相手の主張を理解したうえで、自らの考えを明確に伝えることを苦手とし、さらに、自らの考えを国内外へ発信した経験を持つ生徒も多くはない。 <p>[仮説]</p> <ul style="list-style-type: none"> A. 長崎の持つ教育資源を通して、グローバルな課題を認識させ、国際平和や相互発展を実現するための手だてを考察させることにより、長崎（日本）に対する誇りを持ち、グローバルな課題を自分に関わることとして考察する姿勢が育成される。 B. 課題研究において、目的に応じた調査・分析・ディスカッションなどをグループで行わせることにより、能動的に学ぶ姿勢や、自らの強い意志を持ちつつ他者と協力して課題解決に取り組む姿勢を育成できる。 C. 課題研究を行う際の、大学や企業等の関係者とのコミュニケーション、日本語や英語による研究成果の論文作成、国内及び海外での研究成果のプレゼンテーションにより、世界の人々に対して自分の考えを効果的に伝える力が身につく。 <p>(3) 成果の普及</p> <p>積極的に学校訪問を受け入れ、生徒の実際の活動等を公開する。また、長崎県教育委員会と連携し、各種研修会や情報交換会等において成果の普及を行う。</p> <p>ホームページ、SGH通信、報告書などの媒体を利用して研究成果を広く普及する。</p>					

⑧ -2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容 テーマを「世界の『平和と共栄』について、長崎とつながる課題を把握し、その解決の手だてを考察・発信する。」とし、高校1年では学年全員(280名)を対象とし、地元の教育資源を活用した長崎再発見を通して、長崎とつながるグローバルな課題を発見する活動を行う。2年生以降は、国際科の生徒(80名)を対象に、1年次に把握したグローバルな課題の解決に向けての方策を考察・研究し、長崎から世界へ研究成果を発信する取組を行う。 [生徒は下記の3つのグローバルな課題から1つを選択して研究]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ●国際平和の実現 ●医療支援の推進 ●水環境の改善 </div> <p>(具体的な研究内容例) 「近隣アジア諸国との関係の在り方」「核兵器廃絶に向けて」「途上国への医療支援の在り方」「水質向上技術と海水汚染対策」等</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 学校設定科目「ナガサキタイム」、総合的な学習の時間及び特別活動の時間の中で、下記の<Ⅰ>～<Ⅲ>の取組を実施する。 <Ⅰ>長崎の視点からグローバル課題を考察させるプログラム開発(仮説Aに基づく) S G H講演会、国内フィールドワーク、大学院教授・大学院生・留学生との意見交換会、海外の生徒との意見交換、海外フィールドワーク 等 <Ⅱ>グループ型探究学習のプログラム開発(仮説Bに基づく) グループによる「仮説の設定→考察→評価・検証→提言」という流れの探究型学習 等 <Ⅲ>コミュニケーション力、発信力を育成するプログラム開発(仮説Cに基づく) 論文作成、国内及び海外でのプレゼンテーション 等</p> <p>検証評価は生徒へのアンケート及び連携をとった企業等からのインタビューやアンケートによって行う。生徒の活動評価に関しては、「長崎東高校S G H課題研究評価表」の観点別に評価を行い、各学年の評価とする。また、卒業時の進学状況の推移を調査し、グローバルリーダーとしての意欲や使命感を育むことができたかを検証する。また、論文をコンクール等に応募し、外部の評価を受けて検証する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「社会と情報」の1単位分を学校設定科目「ナガサキタイム」で代替。(1年生対象)</p>
⑧ -3 上記以外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ○アクティブラーニングを取り入れた授業を実践するプログラム開発(仮説Bに基づく) 課題研究の中で実施する探究型・問題解決型・対話型・体験学習型・協働型の授業形態を、全教科の中に積極的に取り入れる。公開授業等を実施して、教科の枠を超えた職員研修会等で授業方法を研究し、改善していく。 ○英語によるコミュニケーション力を向上させるプログラム開発(仮説Cに基づく) 課題研究と英語の授業を密接に関連させて、質の高い研究内容と優れた英語力の育成を実現する。TOEFL等の外部試験の結果をもとに、国際的な基準での英語力も検証。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ○外部講師を招いて教員の指導方法の研修を実施 ○海外語学研修、国内語学研修や海外からの修学旅行団との交流会の充実 ○外国人留学生の積極的な受け入れ ○各種コンクール・コンテストへの参加</p>
⑨ その他 特記事項	<p>[S G Hアソシエイト校としての取組]</p> <p>①S G H課題研究に即して、学校交流に備えた事前学習として、長崎とイスラム文化をつなぎ相互理解を深める学習活動を実施 ②S G Hの活動を活性化させるため、平成27年度からの外国人常勤講師の配置を内定 ③海外でのプレゼンテーションのためのITE College East(シンガポール)との提携交渉 ④グローバルに活躍する起業家による講演会の実施 ⑤S G H指定校への訪問や大学におけるP B L研修会に参加し、そこで得た情報等を共有するため学期に1回程度の職員研修を実施</p>